記念館会報　Vol. 15　　2016. 5. 11

NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

第 14 回「中帰連に学ぶ会」開催

～山梨平和ミュージアム（ＹＰＭ）9年の歩みから～

講師：浅川保さん（山梨平和ミュージアム理事長）

記念館で 2 月 14 日、第 13 回「中帰連に学ぶ会」を開き、今回の講師には甲府の NPO 法人・山梨平和ミュージアム（ＹＰＭ）の浅川保理事長にお願いしました。昨年 4 月には逆に松村理事長が山梨ミュージアムで講演しました。山梨平和ミュージアムは甲府駅からバスで 12 分ほどの場所で機会がありましたら是非お出掛け下さい。

当日は『地域に根ざし、平和の風を～山梨平和ミュージアム 9 年の歩み』のテーマで 2 時間余り話しを伺いました。浅川さんは講演を聴き放しではなく、その後の感想や意見交換が大事と当日もその時間を持ちました。

１．開館に至るまで

50 才のとき、高校日本史の教員として、戦争体験をどう継承するか考えた。

退職 3 年前に平和ミュージアムを作ろうと決意し、2003 年に有志と「山梨平和資料センター準備会」を発足させた。チラシ 1 万枚をまき、講演会なども開き広く呼び掛けた。その結果、自身も退職金から 1200 万円を拠出し、県庁 OB の方からも 1000 万円の寄付の申し出などがあり、800 人から 3800 万円の寄付が集まった。そして 2007 年 5 月 26 日、山梨平和ミュージアムはオープンした。

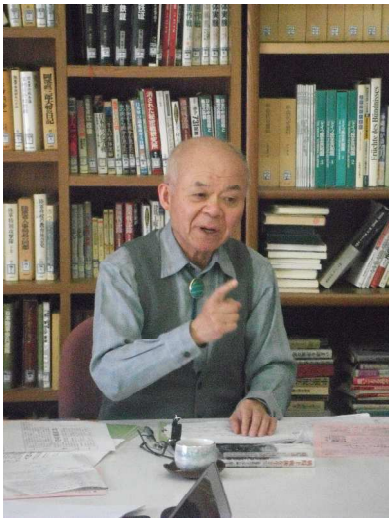
地域には戦争や平和の素材があり、戦争体験者がたくさんいる。これまでにブックレット『甲府空襲の実相　元日航機長が語る空爆の真相』や『伝えたいあの戦争』（山梨ふるさと文庫）など、6 冊の書籍を出版、昨年は、浅川保著の『地域に根ざし、平和の風を』（平原社）を刊行した。今年は重要な政治決戦である参院選などもあり、戦後の分岐点となる。

目　　次

・第 14 回「中帰連に学ぶ会」・・・・・・・・・・・・1
・松村理事長「山猫クラブで講演」　・・・・・・3
・第 9 回「記念館資料室から」　・・・・・・・・・・3
・「NHK、朝日新聞」取材来館　・・・・・・・・・・4
・「ご寄贈の本から」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
・「記念館映像資料から」・・・・・・・・・・・・・・・・5
・「再生の大地合唱団」公演・・・・・・・・・・・・・・5
・「安川寿之輔さん」講演予告・・・・・・・・・・・・6
・「記念館 10 周年」予告　・・・・・・・・・・・・・・・6
・「事務局から」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

２．展示の概要

一階は甲府空襲、戦時下の暮らし、甲府連隊の歴史などについて展示している。同連隊の満州の討伐活動や日中戦争・上海戦線での犠牲、太平洋戦争ではフィリピン・レイテ戦


（浅川保・ＹＰＭ理事長）

で 2500 人が死亡した展示もしている。

資料は市民提供のものを重視し、戦争の実態を示す憲兵・五味民啓氏の戦地からの手紙等貴重な資料を展示している。彼は憲兵で検閲係りだったため、自分の手紙をそのまま残せたと思われる。慰安所のことも具体的に記されている。生前家族には全く話をしなかったが、本人死後 30 年後に手紙が発見された。きちんと綴じられ、本人の「巻頭言」もつけられている。

二階には地元出身の言論人・政治家、石橋湛山の生涯と思想の展示をしている。甲府一高は湛山が在籍した母校で、浅川さんが甲府一高在職中に湛山の中学時代の資料を発見、その後 20 数年間に収集・整理した資料が展示してある。湛山が 1959 年の訪中で発表した「石橋・周共同声明」は、後の田中角栄の日中国交回復につながる大きな意義があった。今年は石橋内閣成立 60 周年の節目の年で、全国唯一の石橋湛山記念館として、全国各地から見学者が訪れている。

３.「平和の港」としての多面的な活動

理事会は毎月開き、毎月の企画行事として戦争体験者の証言、シンポジウム、有識者の講演会なども開いている。年 2 回の企画展の他に、年 1 回記念講演会を開き、今までに安斎育郎、井出孫六、辻井喬、早乙女勝元、色川大吉、保阪正康さんなど著名なゲストを迎え、今年 6 月には澤地久枝さんを予定している。会報は何処からでも来やすい出入り自由な港から名付けた『平和の港』とし、年 3 回発行している。

また 2012 年に「石橋湛山平和賞」を設け、中高生と一般の部に分け、論文やエッセイを募集（原稿用紙 20 ～ 50 枚　中高生は原稿用紙 6 枚以内）している。選考委員長には作家・井出孫六さんにお願いし、全国から毎年二百数十件の応募があり、賞金を付けて表彰している。湛山は若者への期待が大きく、立正大学学長としても教育に当たり、甲府一高でも 5 回くらい講演している。このミュージアムの活動は『信濃毎日新聞』が 3 回に渡って紹介した。

４．学校教育・マスメディアへの影響

「ミュージアム」は県内で平和の問題についての窓口になっており、小学校、中学校からの問い合わせも多い。記者クラブへのアクセスは大事でメディアからの問い合わせ・取材も多い。学校や、９条の会、遺族会などからの要請で平均、年 10 回くらい講演をしている。学校やメディアの影響は大きく、特に若手のメディア関係者への対応、教育が重要であり、その対応について、様々な創意・工夫が必要である。

５．平和博物館との交流

「中帰連平和記念館」も参加している「平和博物館・市民ネットワーク」や、「戦争遺跡ネットワーク」などにも参加し交流を図っている。

６今後の課題

これからは戦後 70 年の蓄積・遺産をどう継承していくか、地域に根ざしつつ、各地の特色を生かした「平和記念館」を各県、各地に作り、平和運動、平和教育のセンターになることが必要。昨年、若者たちが立ち上がった「シールズ」に関心がある。シールズは戦後 70 年間の平和と民主主義の運動に学ぶ姿勢があり期待している。課題も多いが、東日本大震災以降、若者の意識が良い方向へ変わってきていると感じている。

以上

講演の後、浅川さんから取り組みの裏話や、参加者を含め感想や意見交流が活発に行われました。

松村理事長「山猫クラブ」で講演

現在、日本と中国の間では、南京虐殺とか 731 部隊・細菌戦による虐殺、平頂山事件の虐殺や、強制連行・強制労働、従軍慰安婦の問題など未解決の問題が残されているが、日本政府に責任を持って解決しようとする姿勢が見られないことは、安倍首相の「戦後 70 年談話」でも明らかである。そして、上記の諸問題のなかで 731・細菌戦について史料を示しながら詳しく話された。現在、日本はアルメニア人虐殺を認めないトルコとともに大量虐殺を認めない 2 大大国として外国から非難を浴びている。昨年 12 月 28 日の従軍慰安婦をめぐる日韓政府の合意は、従軍慰安婦抜きに決めており、日本政府が責任を認め補償するものでもない。そしてこのような状態が長く続いている根本的な原因は、戦争中、学者、芸術家をはじめとする「知識人」が軍国主義の前に総崩れになったが、戦後はそのほとんんどが戦争責任をとることなく戦後がスタートしたところにある。

それは「戦後歴史学」が抱えていた弱点でもあり、「責任の歴史学」ともいうべきものを、専門家ではなく市民一人ひとりが創らねばならないことに帰着する。市民にはそれを創ることが可能であるその認識論的根拠をカー対バーリン論争を経由して、デカルトとヴィーコの哲学の対立から明らかにした。

『山猫クラブ』：元憲兵だった父を持つ埼玉の倉橋綾子さんが定期的に主催しています。

（「講演」する松村理事長）

連載　記念館資料室から

第9回　「真理を護る人」を追いやる社会

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

私はいま中国の大連に研究滞在しています。中帰連会員には大連にゆかりのある人が少なくありません。憲兵だった三尾豊が関与した「大連事件」の摘発拠点は、滞在先のすぐ近くにある海辺の町です。

「関東州」庁で警察官をしていた高田国勝（1905 年生まれ、熊本出身）も、大連赴任期に抗日戦士を取り調べる経験をしており、その顛末を「手記」のなかでつぶさに語っています。

警察や憲兵が抗日民衆を苛酷に取り調べ、拷問や虐殺を行ったことはこれまでも紹介してきましたが、高田が取り調べを担当した李順彬は既に前任警察官によってひどい拷問を受けた形跡を残していました。また、もともと義足でもあったことから、これ以上痛めつけたところで、組織の全体像に関する供述を引き出せるとは考えらない状況でした。

そこで、高田はとっさに懐柔する作戦に出ました。**「私は笑をつくって〔椅子に〕掛けることを奨め」、「お前、この足はどうしたんだ、可哀想に･･･遠慮せずに掛けろ、これでは立っておれん。俺は昨日までお前を取調べた様な人間とは違うぞ。俺も人間だ、人を打ったり叩いたりして面白い事はない」**などと**「親切そうに」**働きかけたといいます。連日、中華料理を注文して本人の前に並べ、機嫌を取ることまでしました。

ところが、李は座れと奨められても**「私を射る様に睨み」「突立って私を睨んでいた」**だけでなく、義足や全身のケガを心配されたことについても**「〔どうして義足なのかは〕日本人が一番知っているじゃないか！　足位じゃない命までも奪っているじゃないか！　知っている事を聞いてどうするのだ！」**とまくし立てました。**「少しの躊躇も恐怖もない確信に満ちた凛とした態度」**は、高田の目には**「意外な恐ろしい剣幕だった」**と映りました。出された食事も**「握ろうとも食おうとも**

せず、反対に『何故俺を捕えたか、何故俺を拷問するのか言え』と詰問した」ほどでした。

死をも覚悟した**「毅然たる」**態度に対処しあぐねていた高田は、ふと李の母親の話を持ち出したところ、彼はうつ伏して泣き出しました。そこで、**「この面から攻撃しようと決心した**」高田は、**「一生涯楽に食える程の金」**を、李に差し出します。もちろん、抗日組織の実態を教えることと引き換えです。**「この金さえあれば嫁も娶れるし、新しい家も建てることが出来、お袋にも孝行出来る**」と。さらに、**「俺はお前を援けたい。早く言え、早く言わねば助けようと思っても助けることが出来ぬではないか。お前は俺のこの心が判らぬか**」などと**「次々と休みなく口説いて瞞そうとした**」のです。

これに対して李は**「気持ちは判っている**」と洩らします。高田は一瞬**「飛び上りたい程嬉しかった**」のですが、続いて李は吐き捨てるようにこう言いました。**「判っているから話さないのだ。俺に聞いて駄だ、俺は言わん**」。それでも金で母親を喜ばせと迫る高田に、**「俺のお母ぁは、俺のお母ぁは、そんな腐った金で喜ぶ人間じゃねぇんだ！　鬼子の手先として中国人の敵になって暮らそうという人でなしじゃないんだ！**」と毅然とした姿勢を貫いたのです。

ここに来て、高田はついに本性を現しました。**「不正義で頭のこり固まっている私には正義なる反抗が無性に腹がたった**」として、残虐な拷問を加え続け、半年後に李は虐殺されました。

真理を護る人

民族独立と平和への闘い

高田國勝

民族独立と平和への闘いは日本帝国主義の中国侵略の根幹だった。

大連警察は全東北の資源と人々の血と汗を搾り取った満鉄の起点であった。人々は掘立小屋に露をしのぎドンゴリ粉で飢に耐えながら愛する祖国を守る為に、人間が人間として當然享くべき自由と平和を築き上げる為に斗ってゐた。

だが、しかし侵略者は死に物狂ひになって弾圧しようとした。

一九四〇年六月七日午前十時頃の事であった。

（高田国勝さんの手記）

高田はこの手記に**「真理を護る人」**というタイトルを付けています。**「李順彬烈士は真理を守りぬいた**」と。真理とは**「民族独立と平和への闘い**」であり、それは**「真理なるが故に日本帝国主義侵略者権力をもってしても惨忍な暴力をもってしても、金・欺瞞・陰謀によってもどうすることも出来なかった**」と締め括っています。

10 億円というお金で「慰安婦」問題という＜事実＞が「無かったこと」「終わったこと」にすることが「合意」されたり、嘘や道理の通らないことを口に出すことがもはや躊躇われることもないような発言が毎日流れてきたりする今、「真理を護る人」のことなど顧みられなくなっています。いや、「真理を護る人」が声を上げると、「サヨク」「売国奴」だと一斉に罵倒し、「正義なる反抗が無性に腹がたった」という人々が吹き上がります。第二、第三の「高田」が生まれるのに、あとは何が必要でしょうか。（敬称略）

ＮＨＫ、朝日新聞 取材・来館

2 月 17 日にＮＨＫディレクターの奥秋聡さんが、仁木ふみ子初代館長と彼女が研究していた関東大震災時の「中国人虐殺」の資料を求め来館しました。しかし、記念館には彼女が書いた本程度しか資料が無く、丁度、仁木さんが日教組本部婦人部長をしていた頃からの仁木さんと親しくお付き合いのあった山形県鶴岡市在住の富樫千恵子さんが上京中だったので、その対応をお願いしました。

4 月 27 日には以前から「中帰連」に関心を戴き 2000 年の訪中にも同行し『人・脈・記』でも「中帰連」を記事にして下さった朝日新聞・東京本社の上丸洋一記者（編集委員）が中帰連の会報『前へ前へ』を見たいと来館しました。また、同日は一時帰国したオーストラリアに留学中の院生も来館しました。

ご寄贈の本から

『かえりみる日本近代史とその負の遺産』

著者は現在 90 歳の東大名誉教授ですが専門は「生態系生態学」で近現代史の専門家で

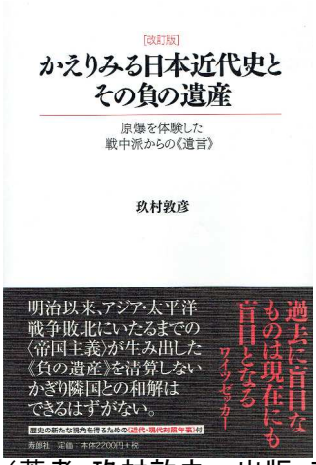
はありません。

広島で被爆した著者は 80 歳頃から「戦中派として我慢できないことが多すぎる」と感じ、何とかその思いを後世に伝えたいと「衰えた頭脳と、体力を振り絞って纏めた」本と記されています。

「私の戦争体験、かえりみる日本近代史、日本近代史の負の遺産とその清算・克服」の三章からなりますが、メインは第二章で、日清、日露戦争から韓国併合、第一次大戦、満州事変、盧溝橋から太平洋戦争、そして、敗戦から新憲法と戦争責任と詳しく記され、それは詳しい目次にも反映されています。

三章も貴重でドイツの「負の遺産」の克服を例示し、最後に「日本の歴史認識の浅薄さと負の遺産の精算・克服」で終結しています。

各所に出展や参考資料が例示され読みものとしてだけではなく、資料として目次から関心のある部分だけ読んでも有効です。内容は一般市民にも解りやすく書いてあり、戦争の被害だけではなく加害やその責任についてもこの本で考えて欲しいと思います。

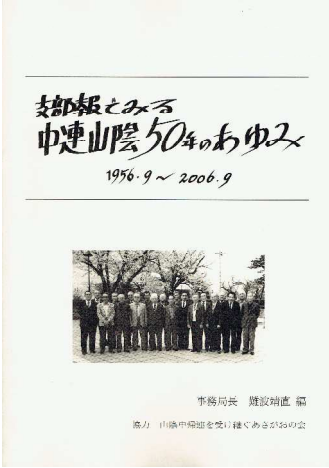


著者は著作権を放棄し、自費で宣伝活動をしており自身の最期の仕事と思って書いた本で、著者は「沖縄基地問題」にも大変心を痛めています。

（著者：玖村敦夫　出版：寿郎社）

『支部報でみる　中連山陰50年のあゆみ』

「中帰連」は 2002 年 4 月に高齢のため解散しましたが、その解散の席で「山陰中帰連は解散しない」と宣言した通り、山陰中帰連はその後も活動を続けましたたが事務局長だった難波靖直さん（松江市）が 2014 年 3 月に亡くなり、その後、後継組織として「あさがの会」が発足し、「山陰中帰連を語り継ぐ会」と合流し「山陰中帰連を受け継ぐあさがおの会」（代表・西村弘命さん）として運動を続けていいます。



本誌はその「山陰中帰連」の 50 年の歴史を支部報などから纏めたものです。

難波さんは「手書き」の会報にこだわっていましたが、その後の活字化では千代子夫人がタイプ入力で大きな支えとなったとのことです。この冊子には各所に懐かしい写真も挿入され貴重な記録です。52 名で発足した山陰中帰連は今も 6 名の方がご健在とのことです。　**（希望者は「記念館」まで〒込800円）**

記念館『映像資料』から

『命をかけた日中友好・岡崎嘉平太』

岡山県出身の岡崎嘉平太は日銀を自己退職した後、経営危機の池貝鉄工及び丸善石油の社長を勤め立て直した。その後、全日空社長に就任し、高碕達之助らと共に何度も訪中し半官半民の「LT 貿易協定」（日中覚書貿易）を結んだ。岡崎の訪中は 100 回にも及び、国交回復前のこの民間貿易で日中友好の礎を築いた。

その功績で国交回復式典の前々日に、周恩来は岡崎たった一人ための一卓のパーティーを開いている。日中国交回復前に中国の「賠償請求権放棄」の意思を日本政府に伝えたのも彼だった。

中国には「水を飲む時には井戸を掘った人の事を忘れない」との諺があり、岡崎嘉平太は周恩来から「貴方はその井戸を掘った人だ」と高く評価され。

（07.3.19　ＮＨＫ「ＥＴＶ特集」 60 分）

「再生の大地合唱団」公演

東京の牛込箪笥区民ホールで 2 月 7 日『再生の大地』合唱団を聴いてきた。この合唱は戦後シベリア抑留の 5 年後の 1950 年にシベリアから中国に戦犯として引き渡され 6 年間撫順戦犯管理所に収容された「中帰連」の戦犯たちの体験を唄ったものです。

多くの加害・虐殺を体験してきた彼らは処刑さえ覚悟していましたが、管理所では人道的扱いを受け、戦犯一人に中国人数家族分の食事を与えられ当初彼らは「最後の晩餐」とさえ思いました。しかし、その扱いは何時までも変わらず、自分の過去を振り返り考えるよう指導された。当初「命令を実行しただけ」と彼らは反発していましたが、やがて自身の過去を徐々に振り返り反省し、彼らが「鬼から人間」に戻ったいう実話の合唱組曲です。

56 年の特別軍事法廷では 1062 人の戦犯に一人の死刑も無期もなく起訴されたのは僅か 45 人で他全員「起訴免除」とされ帰国を許されたのです。

ある戦犯は職員から「もう二度と武器を持って大陸に来ないで下さい。日本へ帰ったらキレイな花を咲かせ幸せな家庭を築いて下さい」と朝顔の種を渡され、亡くなるまで毎年この花を咲かせていました。この花を『赦しの花・撫順の朝顔』と呼び、ハート型の葉にブルーのキレイな朝顔の花を平和を愛する仲間が今各地で咲かせています。

11月に「開館10周年イベント」

記念館がＮＰＯとして 2006 年 11 月 3 日に開館して今年で 10 周年を迎えます。この間、多くの皆様のご支援・ご理解に御礼と感謝申しあげます。

その「記念集会」を地元の川越で 11 月 13 日（日）に開催を予定しています。後日、「会報」その他でご案内致しますので、多くの皆様のご参加をお持ちしております。

「安川寿之輔さん講演会」予告

日時：５月２２日（日）13：30 ～ 16:00
場所：「中帰連平和記念館」
講師：安川寿之輔（名古屋大学名誉教授）
テーマ：「福沢諭吉の見直し～日本の『近代』と『戦後民主主義』の問い直し」
参加費：無料
出版：花伝社　　発行：2016.3.25
A5 版　117 頁

希望者は記念館まで（〒込1000円）

事 務 局 か ら

『会報』発行が遅れ申し訳御座いません。

多くの皆様から会費やカンパなどご支援下さり感謝と御礼申しあげます。その皆様のご理解とご支援が、私たちボランティアスタッフの励ましになっております。今後とも宜しくお願い致します。

『NPO・中帰連平和記念館』

〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
郵便振込口座名「NPO・中帰連平和記念館」
振込口座　：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）
（なるべく事前にご連絡下さい）